

大阪市中央体育館

施設管理者 : (財) 大阪市スポーツ振興協会 <http://www.ospa.jp>

施設所在地 : 大阪市港区田中3丁目1-40

調査見学時期 : 平成16年11月26日

施設概要

緑豊かな丘陵をモチーフに立てられた二つのアリーナを擁する半地下式の体育館です。地上部は公園で、市民の憩いの場となっています。館内にはメインアリーナ、サブアリーナ、柔道場、剣道場、会議室などがあります。

①メインアリーナ

フロア面積 3,580m² (77m×46m) バスケットボール4面

天井高 中央部 26m、周辺部 19m、観客席 固定席 5,932席、可動席 1,390席

最大収容人数 10,000人

②サブアリーナ

フロア面積 1,540m² (38m×35m) バスケットボール2面

天井高 中央部 16m、周辺部 12.5m、選手等控席 固定席 188席

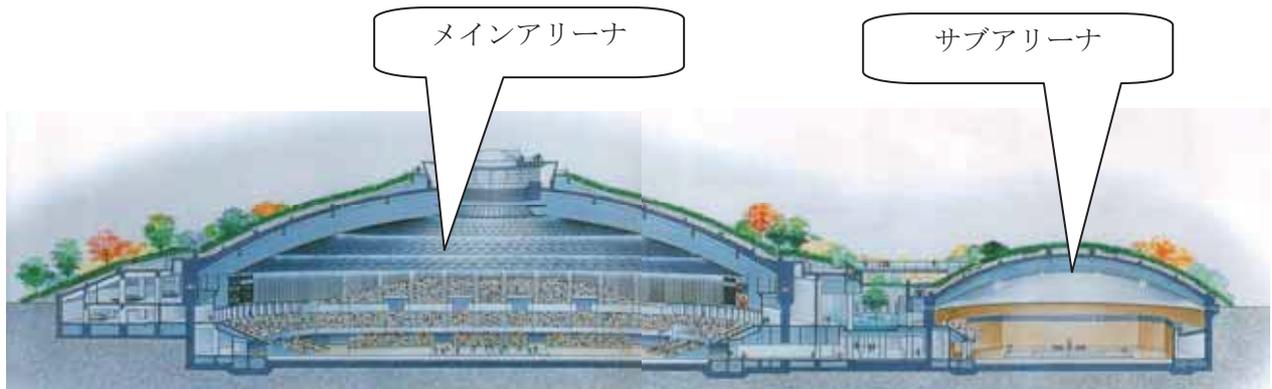


図1 概念図 (大阪市中央体育館パンフレットより転載)



写真1 入口



写真2 公園 (メインアリーナ天井付近)

大阪市中央体育館

施設管理者 : 一般財団法人 大阪スポーツみどり財団

施設所在地 : 大阪市港区

調査見学時期 : 平成 11 年 3 月 11 日～12 日

施設概要

今回の視察は、「人と関わりを持つ地下空間利用施設」に視点をおいて、不特定多数の観客を収容する地下構造の施設である**大阪市中央体育館**の調査を行いました。

1万人の収容規模を誇る大阪市中央体育館のメインアリーナは、地下構造の大空間として他を圧倒するものがあります。いずれの施設も、明るく、広い空間を形成するとともに利用者に対する安全性や利便性に配慮することにより、従来の地下街や地下施設のイメージを払拭し、快適な地下空間を創出することに力を入れた設計がなされた事例といえます。（GECニュース第115号より抜粋）

大阪中央体育館

施設管理者 : 大阪市
施設所在地 : 大阪府大阪市
調査見学時期 : 平成9年12月12日(金)

施設概要

2日目は、大阪市の中央体育館を見学させていただきました。古墳のような外観を成すこの体育館は、厳しい建蔽率で規制される都市公園内での建設を実現させるために、殆どの部分を地下構造とし、覆土・植生による緑地で覆われていました。建築物と見なされる部分は、メイン・アリーナとサブ・アリーナからわずかに地上に出ている天井の一部で、延べ床面積が約38,400㎡であるのに対し、建築面積は約440㎡となっています。いずれの施設も、地下空間を有効利用するとともに、その特性を生かした構造物であり、貴重な視察となりました。(GECニュース第100号より抜粋)



大阪中央体育館にて

大阪市中央体育館

施設管理者 : 大阪市
施設所在地 : 大阪市港区田中 3 丁目八幡屋公園内
調査見学時期 : 平成 8 年 11 月 13 日

施設概要

大スパンのコンクリートシェル屋根により地下は大空間を内包する体育館、屋根上部はすべて公園とした積層利用を行い、都市にとっては貴重な財産となる緑豊かな緑地の確保と八幡屋公園と一体化した魅力ある景観を作り出している。また、地下の恒温性を活かした自然換気システムや雨水利用施設など外部負荷を低減し、自然のエネルギーを最大限利用する省エネルギー施設となっている。

メインアリーナ：77m×46m（観客最大収容数 10,000 人）

サブアリーナ：38m×35m

延べ床面積：38,425 m²

建築規模 : 地下 3 階

